

青 森 県

青森県 がんの医療圏の概要

平成 31 年 4 月 1 日現在

2 次医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院			特定領域がん診療連携拠点病院		地域がん診療病院	
						既指定 病院数	今回更新 病院数	計	既指定 病院数	計	既指定 病院数	計
津軽 地域保健医療圏	1,597.73	269,126	21.3	168.4	22	1	0	1	0	0	0	0
八戸 地域保健医療圏	1,346.66	314,125	24.8	233.3	27	0	0	1	0	0	0	0
青森 地域保健医療圏	1,477.54	302,838	23.9	205.0	23	1	0	1	0	0	0	0
西北五 地域保健医療圏	1,753.00	137,877	10.9	78.7	8	0	0	0	0	0	0	0
上十三 地域保健医療圏	2,054.93	171,099	13.5	83.3	13	1	0	0	0	0	0	0
下北 地域保健医療圏	1,414.88	70,626	5.6	49.9	4	0	0	0	0	0	0	0
計	9,644.74	1,265,691	100	131.2	97	3	0	3	0	0	0	0

青森県 平成31年4月1日現在の指定状況

- ①弘前大学医学部附属病院 (平成31年4月1日)
- ②八戸市立市民病院
- ③青森県立中央病院★ (平成31年4月1日)
- ④十和田市立中央病院 (平成31年4月1日)
- ⑤三沢市立三沢病院
- ⑥むつ総合病院

今回の指定区分の変更申請に伴い、地域がん診療病院として申請。

むつ総合病院は、都道府県がん診療連携拠点病院である「青森県立中央病院」と患者移送、医師交流等で強く連携している。

西北五地域保健医療圏に住むがん患者は、津軽地域及び青森地域保健医療圏へ受診するため、主に①及び③の両病院でカバーする。



要件未充足のため、令和元年度の指定はならなかったものの、令和2年度には、要件を具備したうえで、がん診療連携拠点病院の指定申請を行う。

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値

★：都道府県拠点 ◇：地域拠点（高度型） ◎：特定領域拠点

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。（右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください）

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)							
1 津軽		更新	弘前大学附属病院	(3,555) 3,639	(30.3) 30.0	(2,290) 1,975	(1,254) 750	(5,330) 6,325	(550) 553	112	28	437
2 八戸		更新	八戸市立市民病院	(2,036) 2,129	(14.8) 15.8	(1,393) 1,337	(733) 791	(980) 1,509	(303) 315	7	30	1,059
3 青森	★	更新	青森県立中央病院	(5,090) 1,241	(33.5) 20.2	(2,551) 2,185	(1,500) 1,443	(2,830) 3,156	(649) 601	356	21	2,573
4 上十三		更新	十和田市立中央病院	(1,213) 1,180	(19.7) 17.8	(470) 502	(333) 332	(459) 485	(114) 151	121	33	732
5 上十三		更新	三沢市立三沢病院	(929) 908	(23.6) 22.9	(421) 419	(196) 305	(1,306) 350	(98) 101	47	25	98
6 下北		更新	むつ総合病院	(1,271) 1,351	(19.8) 20.7	(619) 584	(301) 359	(561) 1,598	(151) 211	61	80	188

青森県 平成31年度の指定推薦等状況と患者受療動向

- ①弘前大学医学部附属病院（平成31年4月1日）
- ②八戸市立市民病院
- ③青森県立中央病院★（平成31年4月1日）
- ④十和田市立中央病院（平成31年4月1日）
- ⑤三沢市立三沢病院
- ⑥むつ総合病院

下北圏域（医療需要（患者の流出入）

（圏域74.9%）	津軽地域（4.2%）
	八戸地域（2.7%）
	青森地域（15.8%）

出典：青森県保健医療計画（H30年4月）



青森県の現状

～平均寿命及びがんの年齢調整死亡率ともに全国最下位～

- 青森県の平均寿命
男女とも全国最下位となっている。（平成27年都道府県別生命表）
- がんによる死亡状況
がんは昭和57年以降、死因の第1位となっており、死亡原因の約3割を占めている。
- がんの年齢調整死亡率
年齢調整死亡率が最も高く、男女とも全国最下位で推移している。

～健康で長生きな青森県の実現に向けて～

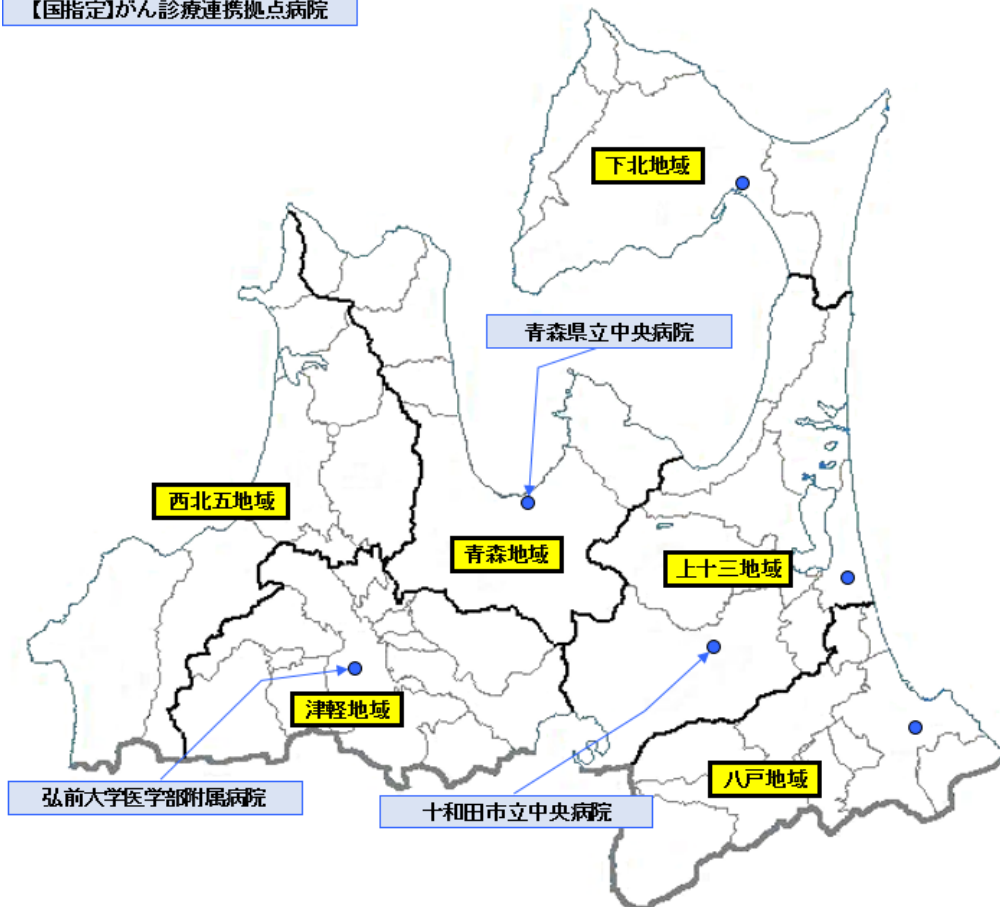
- ヘルスリテラシー（健やか力）の向上とライフステージに応じた生活習慣の改善
- 戦略的ながん対策の推進
- がん医療の充実とがんになっても安心して暮らせる環境づくり

■ 第三期青森県がん対策推進計画

- ・ 科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実
- ・ 患者本位のがん医療の実現
- ・ 尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

青森県のがん医療連携体制

【国指定】がん診療連携拠点病院



県がん対策推進計画では、本県のがん医療体制や地域連携については、都道府県がん診療連携拠点病院を中核として、地域がん診療連携拠点病院と、拠点病院に準じる機能を有する病院として県が指定するがん診療連携推進病院、その他の医療機関による機能分担と連携により構築されるものと位置付けられている。

青森県 指定更新に関する考え方

まとめ

平成20年度から青森県がん診療連携協議会において、県内統一の地域連携クリティカルパスを整備・運用するとともに、院内がん登録データの分析・評価、集計結果の報告が行われるなど、限られた医療資源の中で、都道府県がん診療連携拠点病院を中心としたがん医療提供体制の構築や地域連携が着実に進んでいることから、がん医療に係る連携体制等の維持が強く望まれる。

補足事項

○下北圏域のがん医療について

資料4記載のとおり、下北圏域にはがん医療を行うことができる病院はむつ総合病院のみであり、当該地域で治療が難しい症例については、都道府県がん診療連携拠点病院である「青森県立中央病院」へ患者搬送し治療するなど、治療に係る連携が密に行われているほか、医師交流も盛んに行われ、下北圏域の医療提供の底上げを行っている。

今般、区分申請が認められたことから、下北圏域の「がん医療の空白地域」を生じさせないよう、地域がん診療病院として申請するものである。

○空白の医療圏について

先般の地域がん診療連携拠点病院で指定から漏れた八戸市立市民病院については、次年度の指定に向け取組を強化している。また、十和田市立中央病院については1年の指定であることや同一圏域に三沢市立三沢病院も次年度の地域がん診療連携拠点病院の再指定に向けた対応を強化していることから、県として2つの病院の指定要件の充足状況等を確認し、いずれかの病院を指定推薦することとしている。

なお、西北五圏域では「つがる総合病院」を地域がん診療病院として指定推薦するため、県と病院が連携し、申請に向けた取組を強化しているところである。

滋賀県

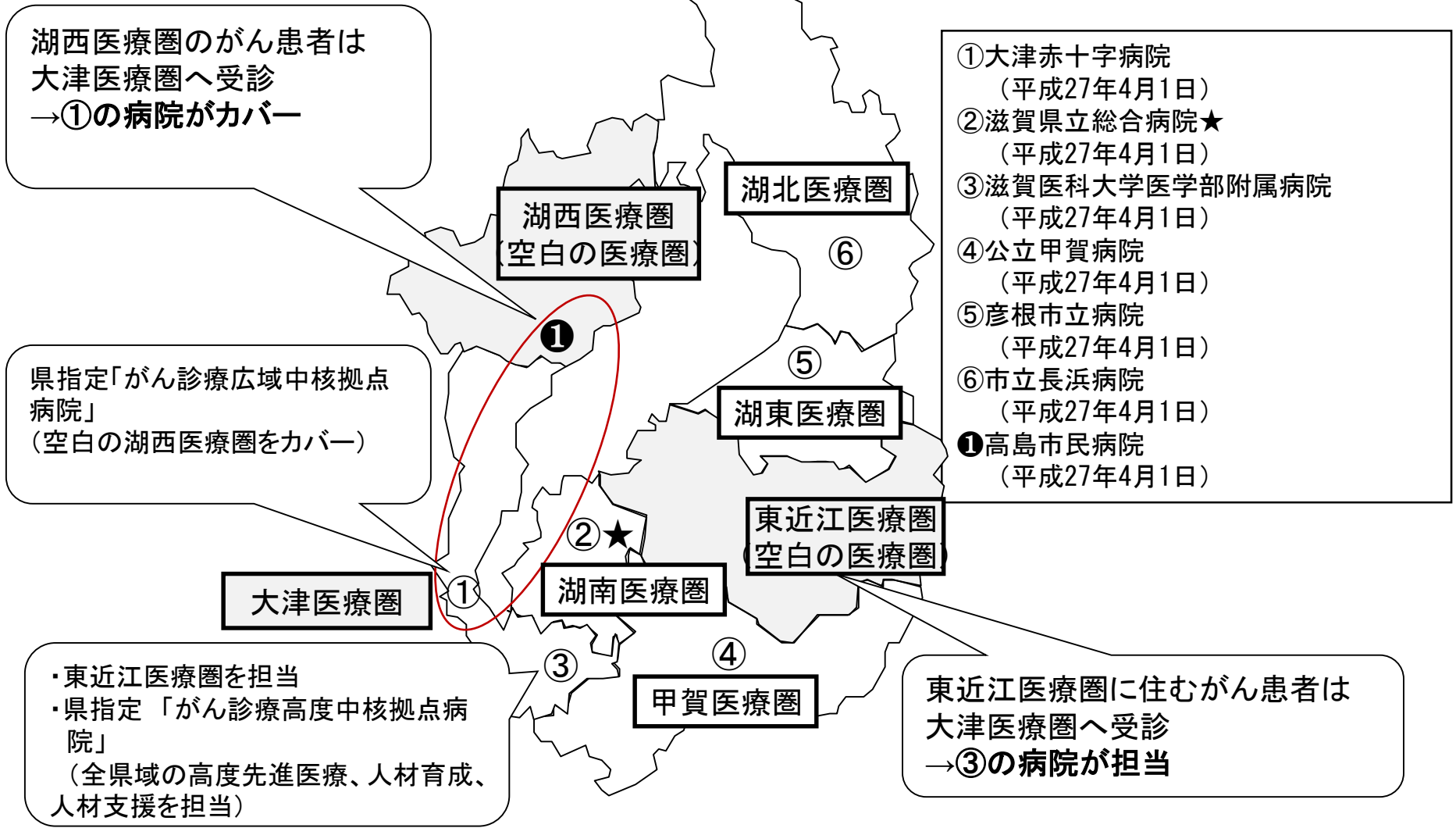
滋賀県 がんの医療圏の概要

平成30年9月1日現在

2次医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院			特定領域がん診療連 携拠点病院		地域がん診療病院			
						既指定 病院数	今回更新 病院数	計	既指定 病院数	計	既指定 病院数	今回更新 病院数	計	
大津保健医療圏	464.51	341,574	24.2	735.3	15		2	2		0				0
湖南保健医療圏	256.39	341,439	24.2	1331.7	13		1	1		0				0
甲賀保健医療圏	552.02	143,929	10.2	260.7	7		1	1		0				0
東近江保健医療圏	727.97	227,930	16.1	313.1	11			0		0				0
湖東保健医療圏	392.04	156,103	11.0	398.2	4		1	1		0				0
湖北保健医療圏	931.4	153,860	10.9	165.2	4		1	1		0				0
湖西保健医療圏	693.05	47,972	3.4	69.2	3			0		0		1		1
								0		0				0
計	4017.38	1412807	100	3273.4871	57	0	6	6	0	0	0	1		1

滋賀県 平成30年 9月 1日現在の医療圏の状況と指定状況

★：都道府県拠点 ◇：地域拠点（高度型） ◎：特定領域拠点



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

- ・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
 - ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
 - ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)
- ★：都道府県拠点 ◇：地域拠点（高度型） ◎：特定領域拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1		更新	大津赤十字病院	(4689) 3186	(31.5) 20.8	1399	(883) 888	(3451) 3871	(446) 427	159	35	758
2	★	更新	滋賀県立総合病院	(2897) 3222	(30.3) 33.0	1560	(935) 1032	(1682) 1785	(485) 558	355	30	2192
3		更新	滋賀医科大学医学部附属病院	(3078) 3161	(22.6) 22.9	1358	(1105) 1471	(5116) 1810	(522) 513	128	15	303
4		更新	公立甲賀病院	(1428) 1502	(20.2) 19.5	762	(352) 286	(275) 273	(134) 123	146	20	828
5		更新	彦根市立病院	(953) 1245	(11.9) 14.1	618	(345) 358	(2684) 480	(108) 114	50	32	336
6		更新	市立長浜病院	(1445) 1445	(16.0) 17.4	691	(382) 413	(754) 904	(269) 269	80	56	1790

地域がん診療病院の診療実績等

資料 3 - 2

- ・上段は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療(実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)						
①		更新	高島市民病院	(263) 286	(6.8) 7.4	257	(54) 57	(1270) 295	(0) 0	58	129

滋賀県 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★：都道府県拠点 ◇：地域拠点（高度型） ◎：特定領域拠点

空白のため、①の病院がカバーしていたが、平成31年度からも①が①とのグループ化のもと、がん診療を提供する。

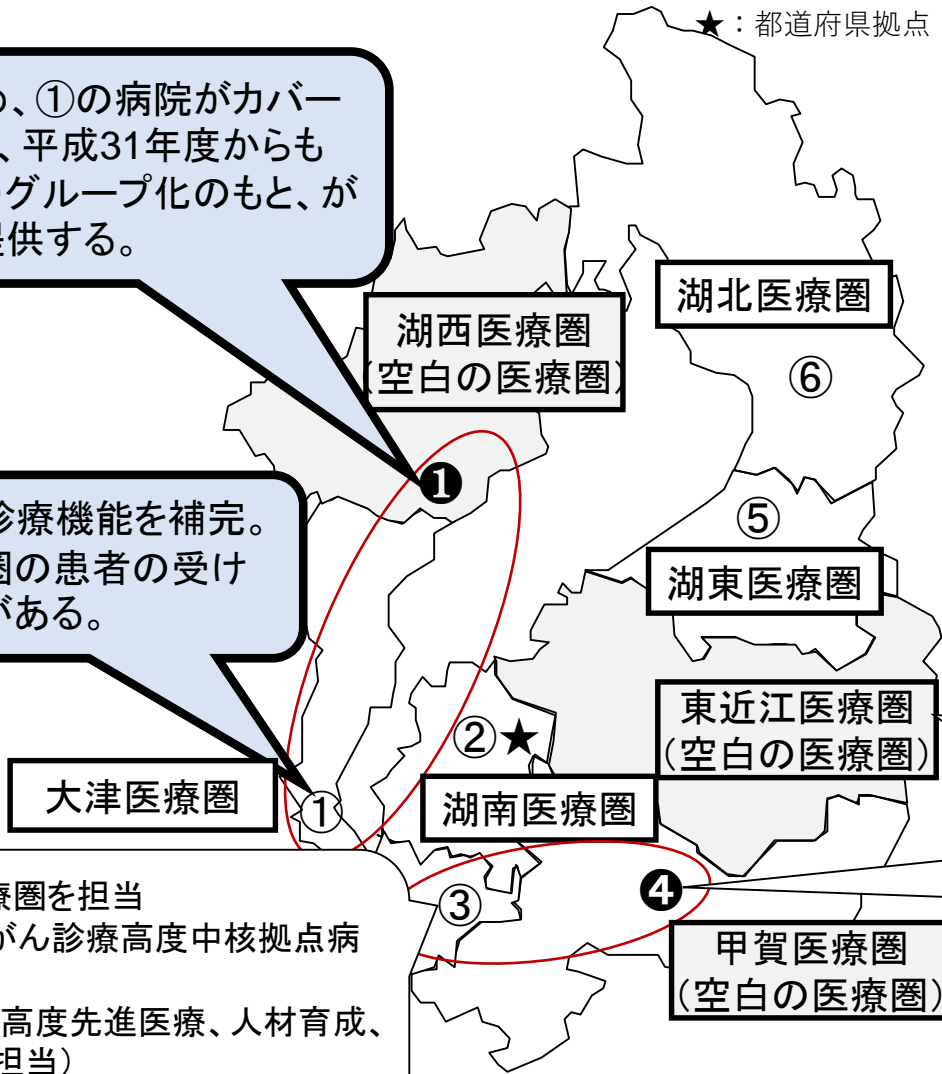
①にない診療機能を補完。湖西医療圏の患者の受け入れ体制がある。

- ・東近江医療圏を担当
- ・県指定「がん診療高度中核拠点病院」（全県域の高度先進医療、人材育成、人材支援を担当）
- ・④との人材交流、連携の協力体制

- ① 大津赤十字病院(更新)
- ② 滋賀県立総合病院★(更新)
- ③ 滋賀医科大学医学部附属病院(更新)
- ④ 公立甲賀病院(新規)
- ⑤ 彦根市立病院(更新)
- ⑥ 市立長浜病院(更新)
- ① 高島市民病院(更新)

東近江医療圏に住むがん患者は大津医療圏へ受診
→③の病院が担当

④が③とのグループ化のもと、人材交流等の連携を図りながら、がん診療を提供する。



滋賀県 指定推薦に係る考え方について（1）

1. がんに関する現状

本県において、がんは昭和56年から死因の1位となっており、全死亡の約3割を占め、現在では年間3,600人以上

の県民ががんにより亡くなっている。今後、ますます高齢化が進行する中で、がんの罹患数や死亡数は増加することが予測される一方で、がん医療は年々進歩を遂げ、がんは長く付き合う慢性の病気になってきている。

こうしたことから、がんの予防、早期発見、適切な治療、ライフステージに応じた対策、治療と生活の両立支援などの総合的ながん対策は、今後ますます重要となってくる。

2. がん対策における基本理念（第3期滋賀県がん対策推進計画（平成30年3月策定））および目標

<基本理念>

県民一人ひとりが輝ける健やかな滋賀の実現

～県民が、がんを知り、がんを予防し、がんになっても納得した医療・支援が切れ目なく受けられ、自分らしく暮らせる滋賀を目指して～

がん患者を含めた県民全体が、がんの予防およびがんの早期発見を進めるとともに、がんになっても、治療の説明を受けて選択ができ、納得した医療が受けられ、そのために必要な支援が受けられることで、自分らしく暮らせる滋賀を目指すことを基本理念とする。

<全体目標>

- ・科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実
- ・患者本位のがん医療の実現
- ・尊厳をもって安心して暮らせる社会の構築

<取り組みの4つの分野>

- ・がんの予防
- ・がん医療の充実
- ・がんとの共生
- ・これらを支える基盤の整備

3. がん診療連携拠点病院等の現状、今後の役割

- 滋賀県のがん医療は、国指定のがん診療連携拠点病院（6病院）、地域がん診療病院（1病院）、県指定のがん診療連携支援病院（6病院）を中心に、我が国に多いがん（5大がん）について、集学的治療を提供する体制を整えている。今後も5大がん、その他専門とするがんについて、がん診療連携拠点病院等を中心にごん医療提供体制をさらに整備していく。
- 都道府県がん診療連携拠点病院（県立総合病院）は、地域がん診療連携拠点病院に対する診療支援、医療従事者に対する研修の実施など、県内のがん医療のコーディネーターの役割を担う。また、地域がん診療連携拠点病院（大津赤十字病院他 5病院）は、各医療圏域において、専門的ながん医療の提供を行うとともに、圏域内の医療機関に対する診療支援、医療従事者に対する研修、患者等に対する相談支援、情報提供などを行う。
- がん診療連携拠点病院等が中心となり、また、滋賀県がん診療連携協議会などでがん診療の連携協力体制を構築しながら、滋賀県内のがん医療の質の向上や安全確保のための取り組み、看護の質の向上、医療従事者の資質向上などを図っていく。

4. がん診療連携拠点病院が指定されていない空白の医療圏への対策

- 湖西医療圏
高島市民病院を地域がん診療病院として推薦。隣接する大津医療圏の大津赤十字病院との連携を前提にグループとして指定。高島市民病院は、大津赤十字病院と連携しつつ、湖西医療圏の専門的ながん医療の提供、相談支援や情報提供などの役割を担う。
- 東近江医療圏
空白の解消については現在協議中であり、現状は、大津医療圏に位置する滋賀医科大学医学部附属病院が担当する。
- 甲賀医療圏
公立甲賀病院を地域がん診療病院として推薦。隣接する大津医療圏の滋賀医科大学医学部附属病院との連携を前提にグループとして指定。人材交流等の連携を図りながら、がん診療の提供を行う。

5. 大津医療圏の2つの拠点病院の役割分担

大津赤十字病院

- ・大津医療圏のがん診療ならびに高島市民病院とのグループ元として湖西医療圏のがん診療を行う。

滋賀医科大学医学部附属病院

- ・空白の東近江医療圏を担当し、大津医療圏のがん診療についても積極的に行う。
- ・県全域の高度先進医療を提供する。
- ・県全域の人材育成、人材支援の中核を担う。

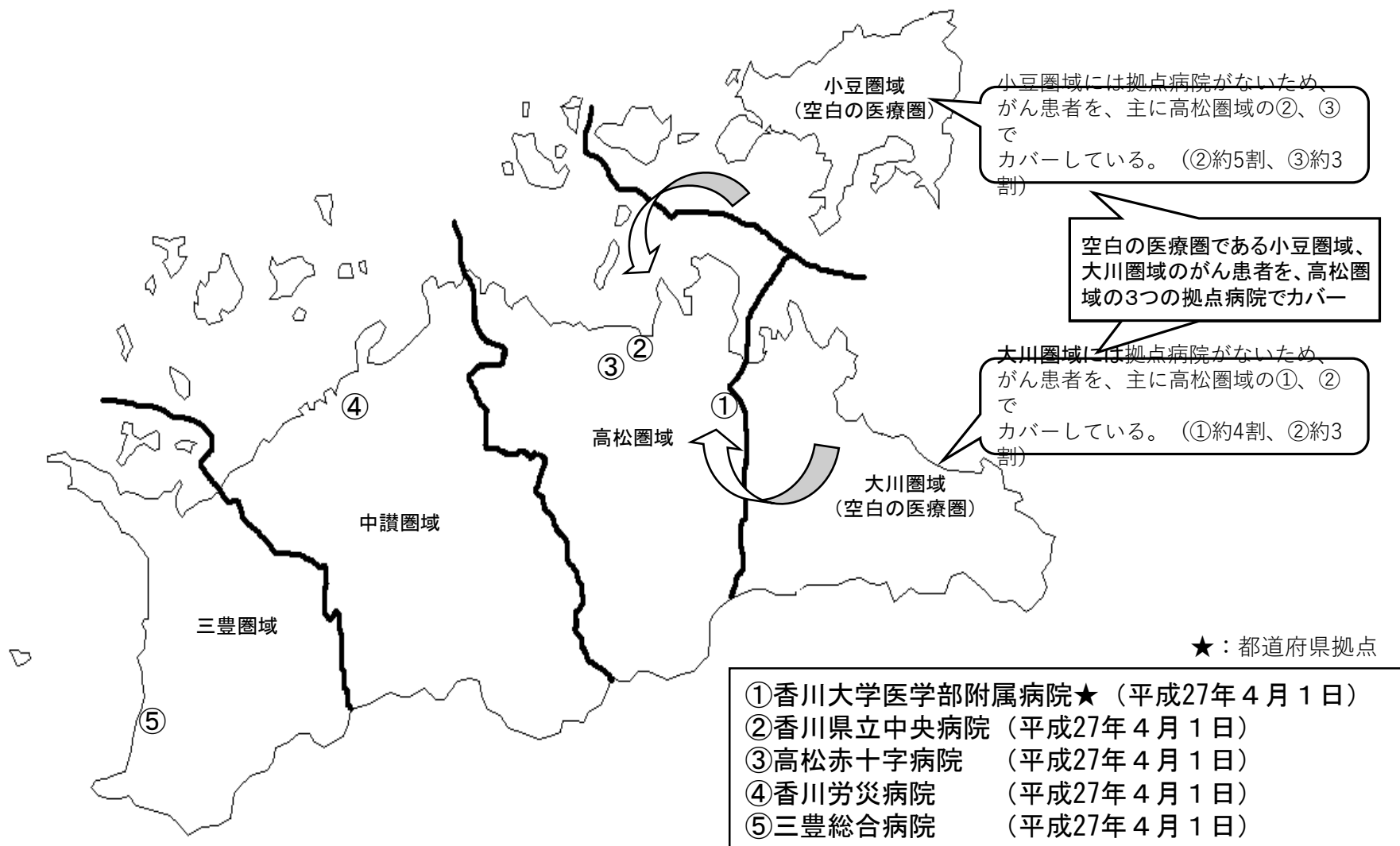
香川県

香川県 がんの医療圏の概要

平成30年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密 度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域がん診 療連携拠点病院		地域がん診療病院	
						既指定 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	既指定 病院数	計	既指定 病院数	計
大川圏域	311	78,862	8.1%	253.2	5	0	0	0	0		0		0
小豆圏域	170	27,931	2.9%	164.3	3	0	0	0	0		0		0
高松圏域	465	451,199	46.6%	969.5	38	0	1	2	3		0		0
中讃圏域	589	287,067	29.7%	487.1	31	0	1	0	1		0		0
三豊圏域	341	122,581	12.7%	359.9	12	0	1	0	1		0		0
計	1,877	967,640	100.0%	515.6	89	0	3	2	5	0	0	0	0

香川県 平成30年 9 月 1 日現在の医療圏の状況と指定状況



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

★：都道府県拠点 ◇：地域拠点（高度型）

・（）内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録 院内がん登録数(年間) 500件以上	手術件数 悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	がんに係る 薬物療法 のべ患者数(年間) 1000人以上	放射線治療 のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケア 緩和ケアチーム に対する新規診療 依頼数(年間) 50件以上	診療の割合 当該2次医療圏 に居住するがん患者の 診療の割合(%) 2割程度	相談支援 センター 相談件数(年間)
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)							
1 高松	★	更新	香川大学医学部附属病院	(2,738) 2,826	(24.7) 24.6	1,300	(1,172) 1,652	(1,853) 1,946	(416) 439	79	17	1,988
2 高松	◇	新規	香川県立中央病院	(3,469) 3,309	(26.4) 25.1	1,457	(856) 1,205	(1,711) 2,403	(444) 424	228	23	2,377
3 高松	◇	新規	高松赤十字病院	(2,152) 2,284	(17.7) 18.7	1,215	(777) 851	(1,066) 1,424	(214) 220	175	18	3,017
4 中讃		更新	香川労災病院	(2,246) 2,292	(23.6) 22.9	1,057	(746) 757	(1,019) 1,827	(267) 276	258	32	1,308

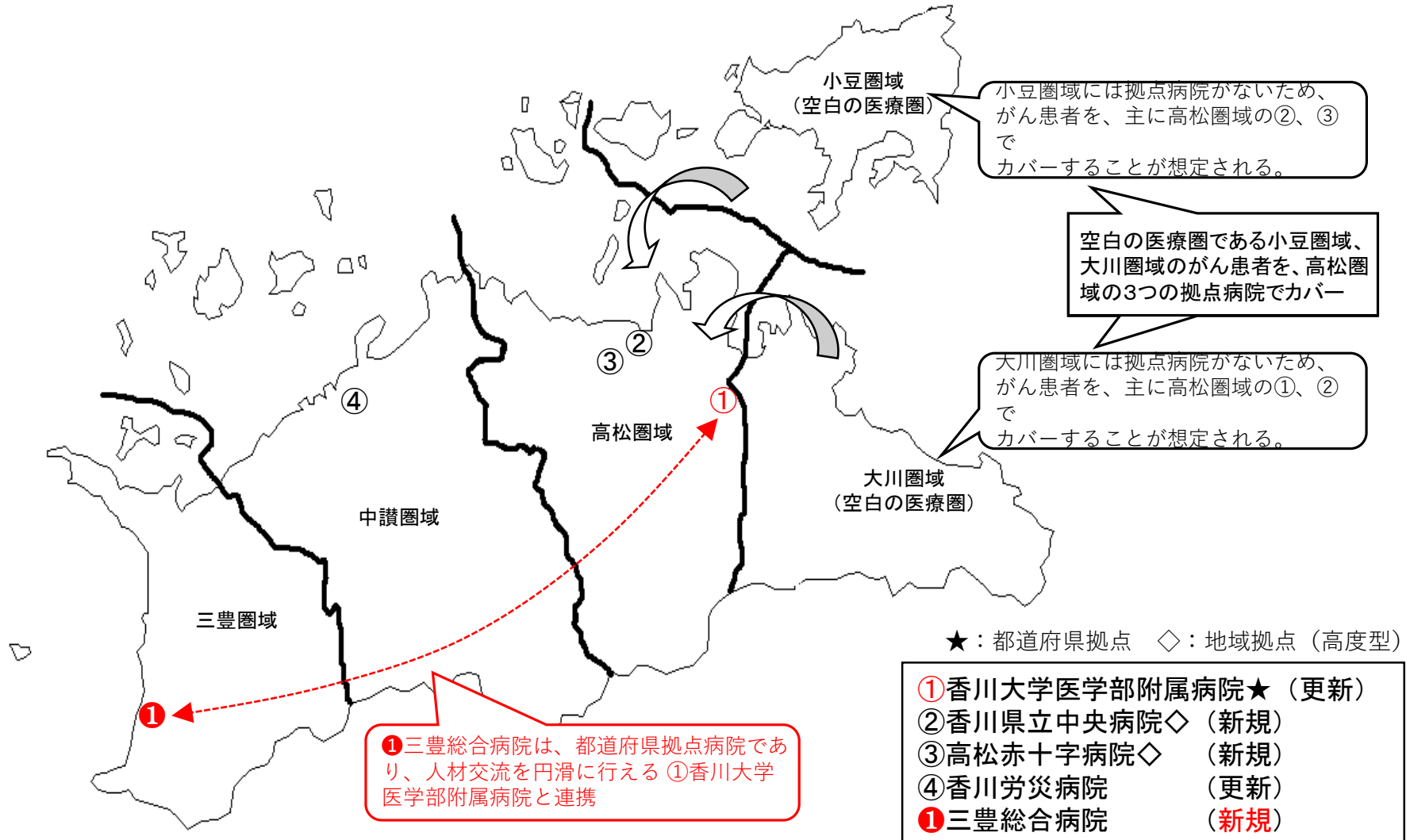
地域がん診療病院の診療実績等

資料 3 - 2

・上段は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療(実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)						
①	三豊	新規	三豊総合病院	(1,712) 1,724	(17.3) 17.6	812	(503) 598	(726) 819	(152) 155	71	185

香川県 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



今回の指定推薦等に係る香川県の考え方について

資料5

1. 本県のがんの状況

- 昭和52年以来、がんは死亡原因の第1位
(平成29年は24.9%ががんで死亡し、他要因を大きく上回る)
- 高齢化が全国平均を上回って進行
(平成29年の高齢化率は31.1%。全国平均より10年以上早いペース)

がんは、県民の生命と健康にとって
重要な課題

2. がん診療連携拠点病院の整備の考え方

- 県内の5つのがんの医療圏に対し、5つの拠点病院等を整備
- 空白医療圏となっている2医療圏(小豆圏域、大川圏域)を、隣接する医療圏(高松圏域)の3つの拠点病院でカバー

※第七次香川県保健医療計画(計画期間:2018年4月1日~2024年3月31日)で、二次医療圏を従来の5医療圏から3医療圏に見直したが、当該計画の期間中における5疾病・5事業及び在宅医療の圏域は、医療提供体制の継続性や激変緩和の観点からそれぞれ設定。第3次香川県がん対策推進計画においても、この圏域に基づいて、地域に根差したがん医療を行うこととしている。

がんの医療圏	拠点病院等
大川	(高松圏域にある3病院でカバー)
小豆	(高松圏域にある3病院でカバー)
高松	香川大学医学部附属病院★ 香川県立中央病院◇ 高松赤十字病院◇
中讃	香川労災病院
西讃	三豊総合病院

★：都道府県拠点
◇：地域拠点(高度型)

平成30年度まで地域拠点病院であったが、要件を一部充足していなかった。(現在は充足)。このため、都道府県拠点病院であり、合同カンファレンス等の人材交流を円滑に行える香川大学医学部附属病院と連携し、地域がん診療病院として整備。

- 拠点病院等では、専門的ながん医療を提供するとともに、緩和ケアなどがん医療に関する研修や合同カンファレンスの開催、地域連携クリティカルパスの運用などにより、地域のがん診療を行っている医療機関との連携協力・支援体制を強化。

3. 各医療機関における指定要件の充足状況について

(1) 都道府県拠点病院

香川大学医学部 附属病院 (高松圏域)	要件を充足 (都道府県拠点病院として、病院への研修や診療支援を実施。がんプロ養成コンソーシアムにより、がん診療に携わる専門人材を育成。希少疾患治療や未承認薬による治験・臨床試験に取り組むなど、本県におけるがん医療をリード。)
---------------------------	---

(2) 地域拠点病院(高度型)

香川県立中央病院 (高松圏域)	要件を充足 (地域の中核的な医療機関として、がん診療を実施。高松圏域の地域拠点病院で最も診療実績に優れている。強度変調放射線治療(IMRT)、画像誘導放射線治療(IGRT)などの高度な放射線治療を提供。緩和ケアセンターを設置し緩和ケアの充実に努める。)
高松赤十字病院 (高松圏域)	要件を充足※ (地域の中核的な医療機関として、がん診療を実施。クリーンエリアを設置し、造血器腫瘍などの化学療法や造血幹細胞移植に際し、安全で質の高い治療を実施。緩和ケアセンターを設置し緩和ケアの充実に努める。)

(3) 地域拠点病院

香川労災病院 (中讃圏域)	要件を充足※ { 地域の中核的な医療機関として、がん診療を実施 ※経過措置期間中に、「専従の薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する常勤の医師の配置」及び「緩和ケアチームへの、精神症状の緩和に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師の配置」を予定。
------------------	--

(4) 地域がん診療病院

三豊総合病院 (三豊圏域)	地域の中核的な医療機関としてがん診療を実施しているが、地域拠点病院としての要件を一部充足していなかった。(現在は充足)。このため、香川大学医学部附属病院と連携し、地域がん診療病院として要件を充足。
------------------	--



都道府県拠点病院である香川大学医学部附属病院、地域拠点病院である香川労災病院が県内のがん医療等に果たす役割は大きく、引き続き推薦。三豊総合病院については、地域がん診療病院として推薦。高度な診療機能等を有する香川県立中央病院、高松赤十字病院を、地域拠点病院(高度型)として推薦。

鹿児島県

鹿児島県がんの医療圏の概要

平成30年9月1日現在

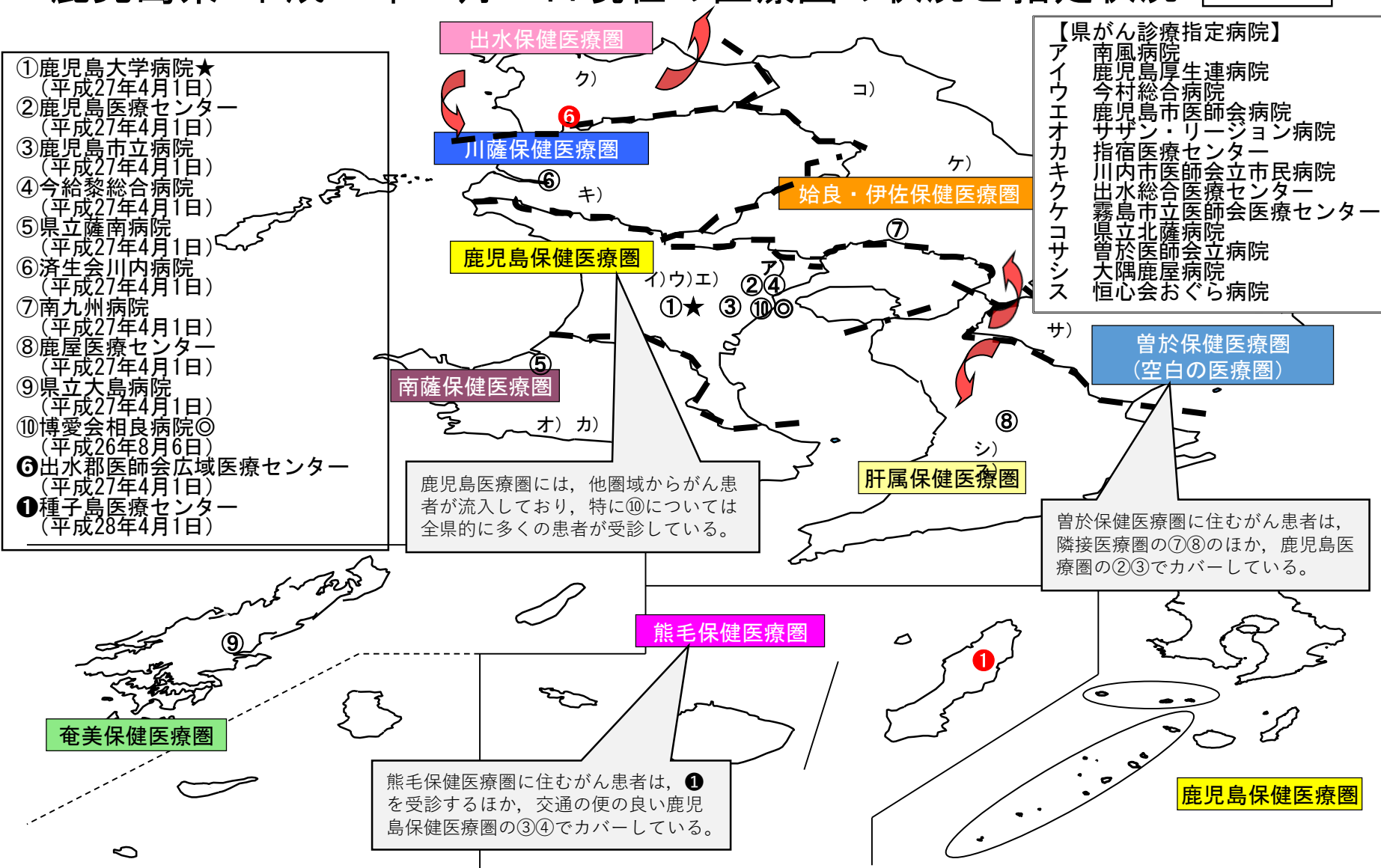
医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
鹿児島医療圏	1044.9	674,366	41.8	645.4	105		4		4		1				
南薩医療圏	865.2	129,287	8.0	149.4	31		1		1						
川薩医療圏	986.9	114,991	7.1	116.5	16		1		1						
出水医療圏	680.6	82,390	5.1	121.1	8				0						1
始良・伊佐 医療圏	1371.7	236,171	14.6	172.2	32		1		1						
曾於医療圏	781.2	77,277	4.8	98.9	9				0						
肝属医療圏	1323	152,170	9.4	115.0	21		1		1						
熊毛医療圏	995	40,909	2.5	41.1	4				0						1
奄美医療圏	1240.3	105,878	6.6	85.4	15		1		1						
計	9288.8	1,613,439	100.0	173.7	241	0	9	0	9	0	1	0	0	2	0

鹿児島県 平成30年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

資料 2

- ①鹿児島大学病院★
(平成27年4月1日)
- ②鹿児島医療センター
(平成27年4月1日)
- ③鹿児島市立病院
(平成27年4月1日)
- ④今給黎総合病院
(平成27年4月1日)
- ⑤県立薩南病院
(平成27年4月1日)
- ⑥済生会川内病院
(平成27年4月1日)
- ⑦南九州病院
(平成27年4月1日)
- ⑧鹿屋医療センター
(平成27年4月1日)
- ⑨県立大島病院
(平成27年4月1日)
- ⑩博愛会相良病院◎
(平成26年8月6日)
- ⑥出水郡医師会広域医療センター
(平成27年4月1日)
- ①種子島医療センター
(平成28年4月1日)

- 【県がん診療指定病院】
- | | | | |
|---------------|---|---|----------|
| アイウエオカキクケコサシス | 南風病厚生連
鹿児島村総合市病師会
サザンズ市・リョウシヨク川出水島北薩大
指宿内水島立於隅 | 厚生連病院
市立鹿屋市立薩南
市立鹿屋市立薩南
市立鹿屋市立薩南
市立鹿屋市立薩南
市立鹿屋市立薩南 | がん診療指定病院 |
|---------------|---|---|----------|



鹿児島医療圏には、他圏域からがん患者が流入しており、特に⑩については全県的に多くの患者が受診している。

曾於保健医療圏に住むがん患者は、隣接医療圏の⑦⑧のほか、鹿児島医療圏の②③でカバーしている。

熊毛保健医療圏に住むがん患者は、①を受診するほか、交通の便の良い鹿児島保健医療圏の③④でカバーしている。

鹿児島保健医療圏

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値 ★：都道府県拠点 ◇：地域拠点（高度型） ◎：特定領域拠点
 ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

医療 圏名	類型	申請 区分	病院名	年間入院患者数の 状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物 療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新 入院が ん患者 数	年間新入 院患者数に 占めるがん 患者の割 合(%)	院内がん登録数 (年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術 件数(年間) 400件以上	のべ患者数 (年間) 1000人以上	のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケアチーム に対する新規診 療依頼数 (年間) 50件以上	当該2次医療圏 に居住する がん患者の診療 の割合(%) 2割程度	相談件数 (年間)
1 鹿児 島	★	更新	鹿児島 大学病 院	(4855) 5331	(35.7) 36.4	1590	(1321) 1413	(8959) 2700	(484) 526	354	32	5711
2 鹿児 島		更新	鹿児島 医療セ ンター	(2223) 2236	(26.9) 27.1	1137	(695) 732	(2037) 6197	(201) 219	69	10	8571
3 鹿児 島		更新	鹿児島 市立病 院	(2490) 2816	(18.4) 19.6	1203	(610) 1882	(6027) 7042	(368) 328	111	16	1153
4 鹿児 島		更新	今給黎 総合病 院	(1518) 1470	(18.5) 16.9	557	(468) 491	(1705) 1722	(209) 171	268	8	606
5 南薩		更新	県立薩 南病院	(873) 752	(37.7) 33.5	165	(179) 98	(876) 1137	(46) 31	29	31	1481
6 北薩		更新	済生会 川内病 院	(1219) 1390	(24.1) 27.4	506	(328) 271	(1370) 643	(191) 195	53	51	2071
7 始良 伊佐		更新	南九州 病院	(370) 286	(31.8) 10.5	382	(222) 160	(214) 227	(108) 153	74	12	1970
8 肝属		更新	鹿屋医 療セン ター	(868) 760	(24.8) 21.1	253	(143) 90	(1870) 289	(175) 147	126	25	606
9 奄美		更新	県立大 島病院	(852) 1134	(13.4) 17.1	272	(161) 144	(214) 433	(100) 65	118	94	388
10 鹿児 島	◎	更新	相良病 院	(1872) 2024	(90.2) 98.2	696	(728) 767	(1331) 1291	(469) 440	65	8	1263

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院（乳がんについて）

資料 3 - 1 - ②

特定領域とするがん種の診療実績について、記載してください。

- ・ 診療実績は、H29年1月1日～12月31日の実績を記載のこと★：都道府県拠点 ◇：地域拠点（高度型） ◎：特定領域拠点
- ・ 申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・ 1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。（右上の資料番号は【資料3-1-②-1】，【資料3-1-②-2】．．．としてください）

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	新規がん患者数 (年間)	手術件数 (年間)	薬物療法のべ患者数 (年間)	放射線治療のべ患者数 (年間)
1	鹿児島	◎	更新	相良病院	2024	767	1291	440

地域がん診療病院の診療実績等

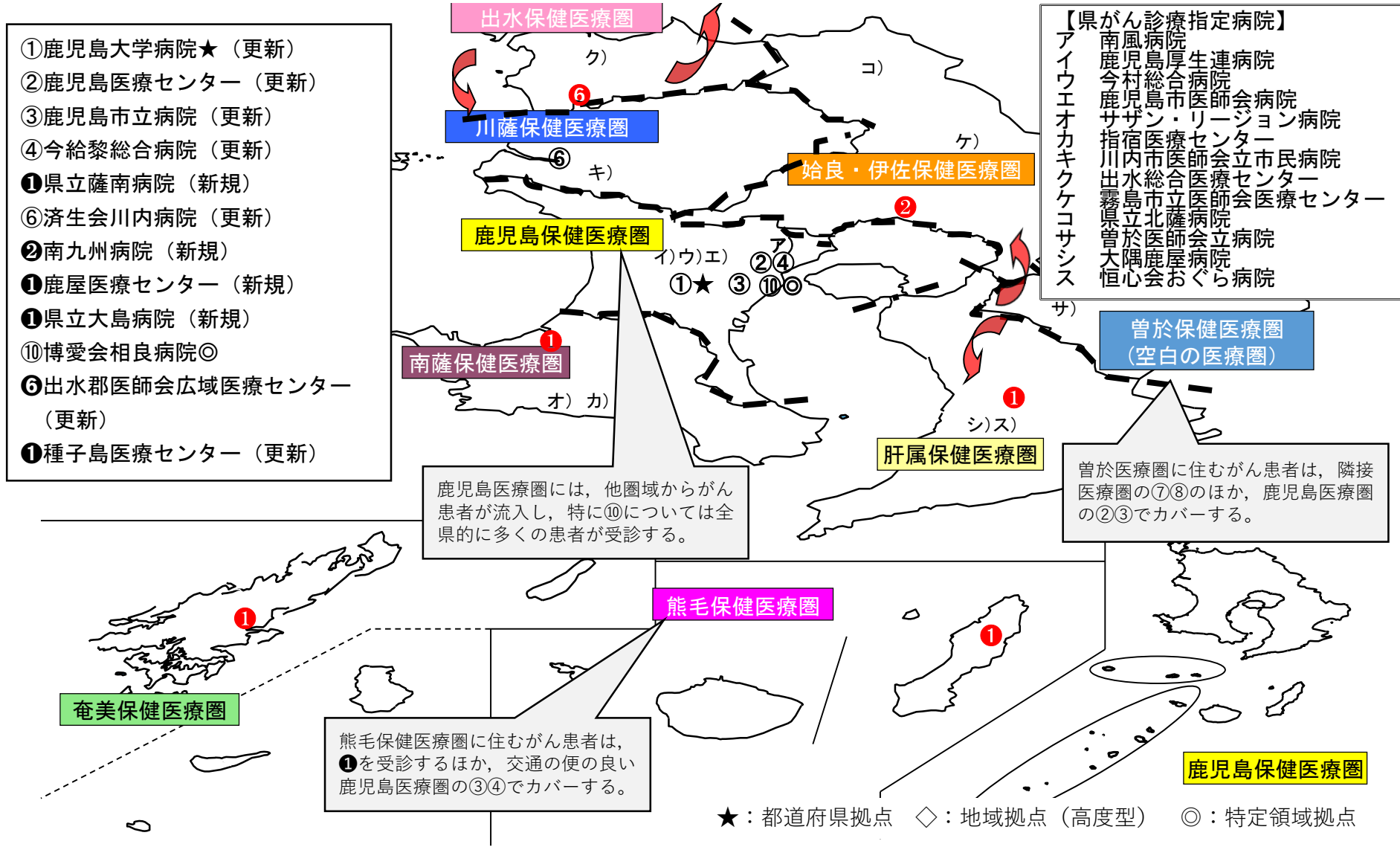
資料3-2

- ・上段は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療(実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)						
⑥	出水	更新	出水郡医師会広域医療センター	(517) 549	(13.1) 13.9	194	(154) 144	(658) 177	(実施なし) 実施なし	106	1053
①	熊毛	更新	種子島医療センター	(365) 404	(11.4) 12.5	154	(28) 55	(274) 48	(実施なし) 実施なし	56	93

鹿児島県 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

資料 4



鹿児島県におけるがん診療連携拠点病院等の指定推薦の考え方

【現状】

- 9保健医療圏中8保健医療圏に12医療機関（都道府県：1，地域がん連携：8，特定：1，地域がん：2）が指定されている。
- 本県独自の「県がん診療指定病院」を13医療機関指定している。

【指定推薦の考え方】

① 県がん診療連携拠点病院及び地域がん診療連携拠点病院の指定更新について

○ 当県には、県がん診療連携拠点病院として鹿児島大学病院が指定を受け、地域がん診療連携拠点病院として、鹿児島保健医療圏に国立病院機構鹿児島医療センター、鹿児島市立病院、今給黎総合病院、南薩保健医療圏に県立薩南病院、川薩保健医療圏に済生会川内病院、始良・伊佐保健医療圏に国立病院機構南九州病院、肝属保健医療圏に鹿屋医療センター、奄美保健医療圏に県立大島病院が指定を受けている。

鹿児島大学病院、鹿児島市立病院、済生会川内病院の3医療機関及び指定要件を充足していない項目があるが、未充足解消のための対策等が明確になっている2医療機関（鹿児島医療センター、今給黎総合病院）については、引き続き患者の住んでいる二次保健医療圏における質の高いがん医療提供体制を確保するため、指定更新を推薦する。

鹿児島県におけるがん診療連携拠点病院等の指定推薦の考え方

② 特定領域がん診療連携拠点病院の指定更新について

○ 博愛会相良病院は、平成26年8月6日に特定領域がん診療連携拠点病院として指定され、乳がんの専門的ながん医療・相談支援体制を県民に広く提供している。引き続き、同病院が特定領域がん診療連携拠点病院として指定されることにより、県内の乳がんに関するより充実した集学的治療等の県民への提供が図られるとともに、乳がんに関する高い診療技術や知識の共有化についても、他の病院との連携の中で図られることが期待でき、県内のがん診療の質の向上が図られることから、相良病院を特定領域がん診療連携拠点病院として指定更新を推薦する。

③ 地域がん診療病院の指定更新について

○ 出水郡医師会広域医療センターは、出水保健医療圏の中核的な病院であり、平成27年4月1日より、隣接の川薩保健医療圏にある済生会川内病院とのグループ指定により、地域がん診療病院に指定されている。引き続き、同センターを地域がん診療病院に指定することにより、地域のがん患者に対して充実した医療を提供でき、出水保健医療圏のがん治療の均てん化に資するため、指定更新を推薦する。

○ 種子島医療センターは、熊毛保健医療圏の中核的な病院であり、平成28年4月1日より、鹿児島医療圏にある鹿児島大学病院とのグループ指定により、地域がん診療病院に指定されている。引き続き、同センターを地域がん診療病院に指定することにより、地域のがん患者に対して充実した医療を提供でき、熊毛保健医療圏のがん治療の均てん化に資するため、指定更新を推薦する。

鹿児島県におけるがん診療連携拠点病院等の指定推薦の考え方

④ 地域がん診療病院としての新規指定について

○ 県立薩南病院，鹿屋医療センター，県立大島病院の県立3病院については，各医療圏の中核的な病院であり，令和元年5月，鹿児島医療圏にある鹿児島大学病院をグループ指定したところである。同3病院を地域がん診療病院に指定することにより，地域のがん患者に対して充実した医療を提供でき，各医療圏のがん治療の均てん化に資するため，新規指定を推薦する。

○ 国立病院機構南九州病院は，始良・伊佐保健医療圏の中核的な病院であり，令和元年5月，鹿児島医療圏にある鹿児島医療センターをグループ指定したところである。同病院を地域がん診療病院に指定することにより，地域のがん患者に対して充実した医療を提供でき，始良・伊佐保健医療圏のがん治療の均てん化に資するため，新規指定を推薦する。

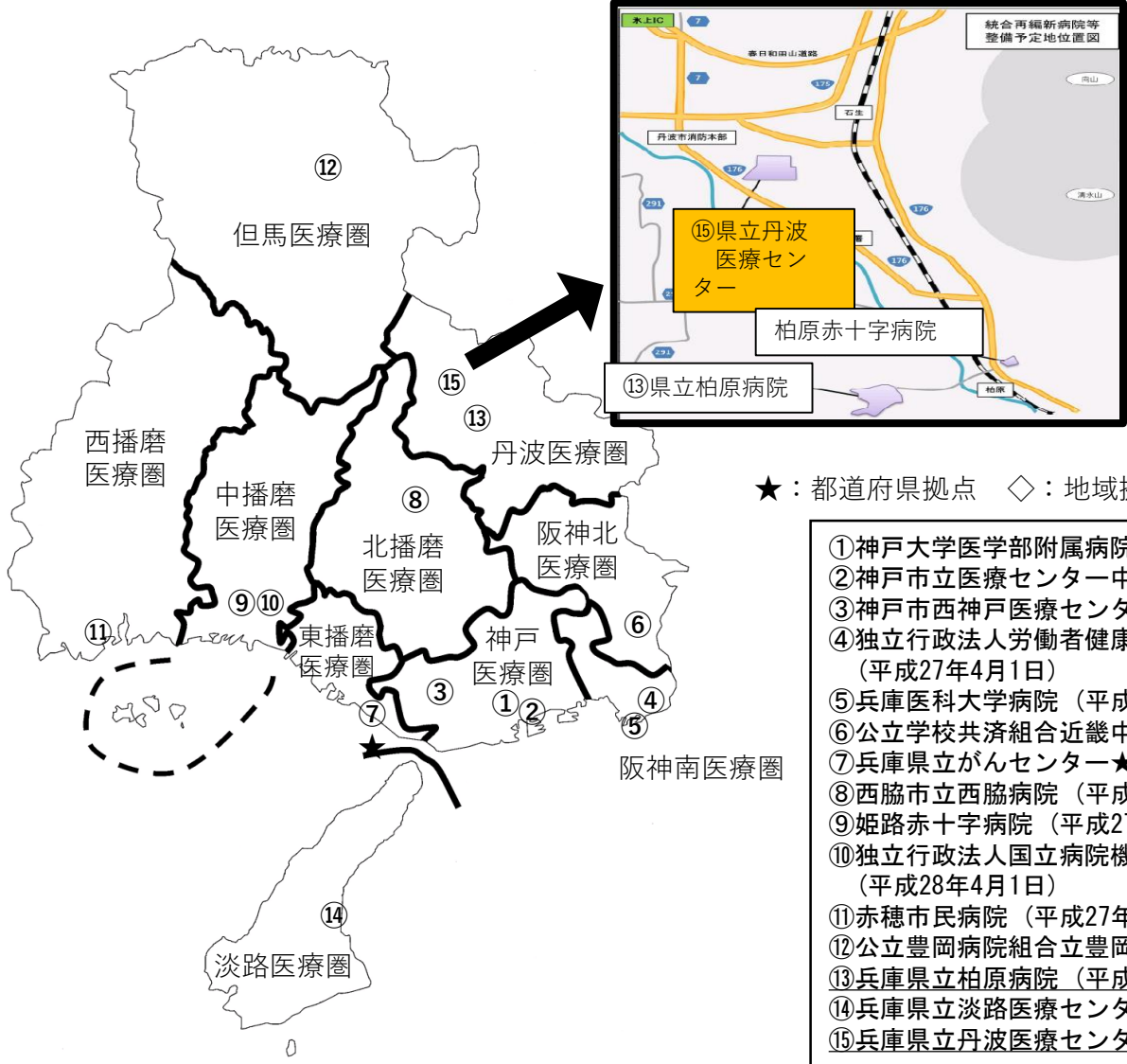
兵 庫 県

兵庫県がんの医療圏の概要

平成30年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口 密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域がん診療連携拠点病院		地域がん診療病院	
						既指定 病院数	今回 更新 病院数	新規 申請 病院数	計	既指定 病院数	計	既指定 病院数	計
神戸医療圏	552.3	1,527,757	27.9%	2,766	100	3	3	0	3	0	0	0	0
阪神南医療圏	168.7	1,034,309	18.9%	6,131	52	2	2	1	3	0	0	0	0
阪神北医療圏	480.8	719,326	13.1%	1,496	37	1	1	1	2	0	0	0	0
東播磨医療圏	266.2	714,828	13.0%	2,685	40	1	1	1	2	0	0	0	0
北播磨医療圏	895.6	267,642	4.9%	299	22	1	1	0	1	0	0	0	0
中播磨医療圏	865.2	573,615	10.5%	663	38	2	2	0	2	0	0	0	0
西播磨医療圏	1567.3	251,906	4.6%	161	24	1	1	0	1	0	0	0	0
但馬医療圏	2133.5	162,971	3.0%	76	11	1	1	0	1	0	0	0	0
丹波医療圏	870.9	102,932	1.9%	118	8	1	1	0	1	0	0	0	0
淡路医療圏	596.0	129,972	2.4%	218	11	1	1	0	1	0	0	0	0
計	8396.5	5,485,258	100%	653	343	14	14	3	17	0	0	0	0

兵庫県 令和元年 6 月 17 日現在の医療圏の状況と指定状況



★：都道府県拠点 ◇：地域拠点（高度型） ◎：特定領域拠点

- ① 神戸大学医学部附属病院（平成27年4月1日）
- ② 神戸市立医療センター中央市民病院（平成27年4月1日）
- ③ 神戸市西神戸医療センター（平成27年4月1日）
- ④ 独立行政法人労働者健康福祉機構関西労災病院（平成27年4月1日）
- ⑤ 兵庫医科大学病院（平成27年4月1日）
- ⑥ 公立学校共済組合近畿中央病院（平成27年4月1日）
- ⑦ 兵庫県立がんセンター★（平成27年4月1日）
- ⑧ 西脇市立西脇病院（平成27年4月1日）
- ⑨ 姫路赤十字病院（平成27年4月1日）
- ⑩ 独立行政法人国立病院機構姫路医療センター（平成28年4月1日）
- ⑪ 赤穂市民病院（平成27年4月1日）
- ⑫ 公立豊岡病院組合立豊岡病院（平成27年4月1日）
- ⑬ 兵庫県立柏原病院（平成27年4月1日）
- ⑭ 兵庫県立淡路医療センター（平成28年4月1日）
- ⑮ 兵庫県立丹波医療センター

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-1

- ・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
 - ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
 - ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)
- ★：都道府県拠点 ◇：地域拠点（高度型） ◎：特定領域拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1,000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1 神戸		更新	神戸大学附属病院	(4,785) 5,118	(25.7) 27.4	2,650	(1,927) 1,878	(1,960) 9,706	(742) 701	402	11	796
2 神戸		更新	神戸市立MC中央市民病院	(4,439) 5,459	(19.7) 23.5	2,556	(1974) 2,012	(2,790) 4,941	(565) 670	410	14	924
3 神戸		更新	西神戸MC	(3,063) 3,034	(23.8) 22.7	1,505	(815) 1,423	(1,903) 2,040	(396) 450	291	9	807
4 阪神南		更新	関西労災病院	(4,124) 3,817	(23.6) 21.6	1,850	(943) 1,676	(1,299) 1,655	(799) 685	133	12	574
5 阪神南	◇	新規	兵庫医科大学病院	(4,531) 4,325	(19.5) 17.8	2,704	(1,841) 1,984	(3,678) 5,774	(763) 643	224	11	1,680
6 阪神南		新規	県立尼崎総合MC	4,347	18.9	1,812	1,287	1,744	574	287	17	656
7 阪神北		更新	近畿中央病院	(1,466) 1,464	(16.8) 16.8	604	(477) 507	(1,025) 1,237	(201) 149	117	8	148
8 阪神北		新規	市立伊丹病院	1,783	17.3	1,205	508	1,269	255	99	15	143
9 東播磨	★	更新	県立がんC	(6,564) 6,239	(82.4) 80.0	2,968	(2,092) 2,058	(3,684) 5,600	(868) 773	301	19	3,061
10 東播磨		新規	加古川中央市民病院	2,386	12.4	1,778	472	5,309	250	89	15	293

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

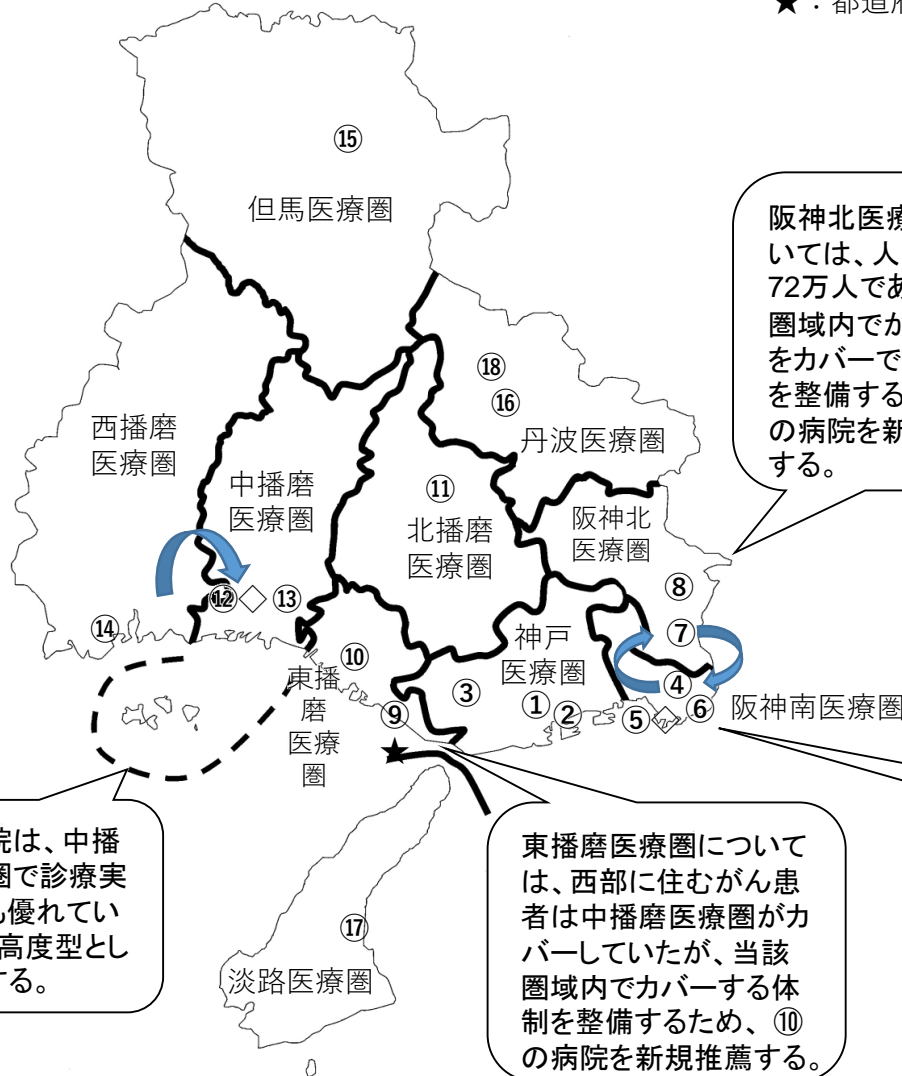
資料3-1-①-2

- ・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
 - ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
 - ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)
- ★：都道府県拠点 ◇：地域拠点（高度型） ◎：特定領域拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター	
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1,000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)	
11	北播磨		更新	市立西脇病院	(938) 1,029	(13.9) 16.0	456	(196) 192	(350) 328	(120) 113	27	25	402
12	中播磨	◇	新規	姫路赤十字病院	(5,179) 5,123	(29.6) 29.0	2,050	(1,649) 1,564	(1,432) 2,111	(442) 384	68	28	1,746
13	中播磨		更新	姫路MC	(4,369) 4,289	(47.3) 45.9	1,518	(1,797) 1,225	(1,941) 1,439	(350) 446	110	25	481
14	西播磨		更新	赤穂市民病院	(1,222) 1,156	(18.5) 17.7	391	(403) 380	(390) 788	(119) 100	37	23	729
15	但馬		更新	公立豊岡病院	(2,043) 1,773	(19.9) 17.2	968	(705) 696	(682) 3,936	(154) 136	5	65	162
16	丹波		更新	県立柏原病院	(673) 649	(14.9) 14.6	337	(346) 285	(161) 239	(54) 77	69	25	1,961
17	淡路		更新	県立淡路MC	(1,134) 954	(17.3) 13.9	1,034	(437) 986	(1,082) 1,686	(211) 195	97	39	1,020

兵庫県 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★：都道府県拠点 ◇：地域拠点（高度型） ◎：特定領域拠点



阪神北医療圏については、人口が約72万人であり、当該圏域内でがん患者をカバーできる体制を整備するため、⑧の病院を新規推薦する。

⑫の病院は、中播磨医療圏で診療実績が最も優れているため、高度型として推薦する。

東播磨医療圏については、西部に住むがん患者は中播磨医療圏がカバーしていたが、当該圏域内でカバーする体制を整備するため、⑩の病院を新規推薦する。

阪神南医療圏については、人口が増加を続けており、約103万人となっている。当該圏域内でがん患者をカバーできる体制を整備するため、⑥の病院を新規推薦する。また、④の病院は診療実績が当該圏域で最も優れているため、高度型として推薦する。

- ①神戸大学医学部附属病院（更新）
- ②神戸市立医療センター中央市民病院（更新）
- ③神戸市西神戸医療センター（更新）
- ④独立行政法人労働者健康福祉機構 関西労災病院（更新）
- ⑤兵庫医科大学病院◇（新規）
- ⑥兵庫県立尼崎総合医療センター（新規）
- ⑦公立学校共済組合近畿中央病院（更新）
- ⑧市立伊丹病院（新規）
- ⑨兵庫県立がんセンター★（更新）
- ⑩加古川中央市民病院（新規）
- ⑪西脇市立西脇病院（更新）
- ⑫姫路赤十字病院◇（新規）
- ⑬独立行政法人国立病院機構姫路医療センター（更新）
- ⑭赤穂市民病院（更新）
- ⑮公立豊岡病院組合立豊岡病院（更新）
- ⑯兵庫県立柏原病院（更新）
- ⑰兵庫県立淡路医療センター（更新）
- ⑱兵庫県立丹波医療センター

拠点病院の整備に関する基本的な考え方

- ・ 県内すべてののがんの医療圏に「がん診療連携拠点病院」を原則1か所整備
- ・ 医療圏の人口規模、患者の通院圏及び拠点病院間の診療機能、役割分担等を考慮し、必要な場合は複数か所を整備

がん対策推進計画上の重点がん種

- ・ 肺がん
 - ・ 肝がん
- 75歳未満年齢調整死亡率(人口10万対)が全国値を上回る

肺・肝がんの罹患(H26)、死亡(H29)状況

	年齢調整罹患率： 人口10万対（罹患数）	
	肺がん	肝がん
全国	40.8	14.7
兵庫県	44.8 (5,479)	18.2 (2,264)

※罹患は、地域がん登録全国推計値を利用

	75歳未満年齢調整死亡率： 人口10万対	
	肺がん	肝がん
全国	13.1	4.6
兵庫県	13.3 (全国34位)	4.8 (全国27位)

県立がんセンターを中心に対応

「肺がん」診療の核となる病院

<医療機関名>	<役割・特徴>
○独)姫路医療センター	中播磨、西播磨医療圏の肺がん手術の大半をカバー
○神戸大学医学部附属病院 ○神戸市立医療センター 中央市民病院 ○西神戸医療センター	神戸医療圏（人口153万人）は、3地域（東部・中部・西部）で対応
○独)関西労災病院 ○兵庫医科大学病院 ○県立尼崎総合医療センター	阪神南、阪神北医療圏のアスベスト疾患に対応

「肝がん」診療の核となる病院

<医療機関名>	<役割・特徴>
○姫路赤十字病院	中播磨、西播磨医療圏の肝がん手術の大半をカバー
○神戸大学医学部附属病院	先進医療（経皮的肝灌流、生体肝移植等）により高度進行肝がんに対応
○兵庫医科大学病院	肝疾患診療連携拠点病院

新規指定推薦を行うがんの医療圏の特徴

- ・ 圏域内及び県内拠点病院を受療する患者の割合が低い。

平成30年9月1日現在の患者の受療行動

がん患者が居住する医療圏	人口(万人)	がん患者の入院医療機関の割合(%)	
		当該圏域の拠点病院	県内の拠点病院
神戸	153	33.4%	39.5%
阪神南	103	23.2%	28.4%
阪神北	72	5.4%	18.3%
東播磨	71	18.9%	25.6%
北播磨	27	14.9%	35.3%
中播磨	57	53.7%	57.2%
西播磨	25	18.2%	56.6%
但馬	16	43.1%	48.4%
丹波	10	24.5%	35.0%
淡路	13	39.0%	61.0%
平均	55	27.4%	40.5%

新規指定推薦病院が承認された場合(H30.9.1現在)

がん患者が居住する医療圏	がん患者の入院医療機関の割合(%)	
	当該圏域の拠点病院	県内の拠点病院
神戸	33.4%	39.7%
阪神南	39.8%	45.4%
阪神北	16.1%	31.2%
東播磨	33.4%	40.1%
北播磨	14.9%	35.9%
中播磨	53.7%	57.7%
西播磨	18.2%	56.6%
但馬	43.1%	48.5%
丹波	24.5%	35.0%
淡路	39.0%	61.0%
平均	31.6%	45.1%

新規指定推薦病院の特徴

阪神南医療圏

平成27(2015)年7月開設、病床数730床

兵庫県立尼崎総合医療センター

- ・ 隣接する阪神北医療圏の患者もカバーしている。
- ・ 既指定病院との連携により、圏域内で包括的かつ完結的ながん医療を提供可能となる見込み。
- ・ 悪性胸膜中皮腫の症例が多い。(全国で5番目)
- ・ 動体追尾式高精度放射線治療装置を導入している。
- ・ 病理検査室のISO015189拡大認定取得予定など、ゲノム

阪神北医療圏

している。

昭和58(1983)年5月開設、病床数414床

市立伊丹病院

- ・ 指定により、当該圏域から阪神南医療圏等への患者の流出の減少が期待される。
- ・ 圏域内での医療連携の推進役となると期待される。
- ・ 開放病床を5床有し、地域医療機関と連携し、急性期から慢性期・在宅医療までシームレスながん治療を提供。
- ・ 3テスラMRI画像診断導入、強度変調放射線治療、脳腫瘍への定位放射線治療など、放射線治療が充実している。

東播磨医療圏

平成28(2016)年7月開設、病床数600床

加古川中央市民病院

- ・ 指定により、当該圏域から中播磨医療圏等への患者の流出の減少が期待される。
- ・ がん治療に高度に特化した県立がんセンターとの連携により、圏域内で完結したがん医療が提供可能となる見込み。
- ・ がん集学的治療センターを設置している。
- ・ 動体追尾式高精度放射線治療装置を導入している。
- ・ 当該圏域の新規血液がん患者の80%以上を受入れている。